

「伝えたい 残したい やまとの景観」



※平成20年度に実施された事業で、当時の写真が掲載されています。



1 境川の河畔林 (下鶴間)

大和市を町田市や横浜市と分ける境川は、元々激しく蛇行する流れでした。河川改修により直線化された川の両岸には、かつて河畔林であった箇所がところどころ緑地の景観を残しています。下鶴間高木地区の林もその一つであり、林の中にある川の蛇行跡は暴れ川とも言われた往時の姿を偲ばせます。

【写真：大和市街づくり推進課】



2 さくらの散歩道 (つきみ野)

明治20年、横浜の水源を道志川に求めた日本初の近代水道（現在の相模原市津久井町から横浜市西区までの約44km）が完成し、水道管の埋設されたルートは「水道みち」と呼ばれ人々に親しまれてきました。その大和市部分約1.7kmが「さくらの散歩道」と名付けられ緑道として整備されています。様々な種類の桜をはじめ、四季の草花が地域の人々により美しく手入れされています。

【写真左・右下：池田 京子さん／写真左下：大和市観光協会】





3 つきみ野の 街並みと緑

田園都市のイメージに即して整備された住宅街の景観が広がっています。つきみ野駅前広場のケヤキ並木や、野球場も備えたつきみ野1号公園が緑の多い街並みを象徴しています。閑静な住宅地の中にあるつる舞の里歴史資料館では、大和市における原始から近現代までの庶民の暮らしを紹介するほか、主に旧下鶴間村に関係する歴史資料を収蔵・展示しています。

【写真左・右下：大和市街づくり推進課／写真左下：小杉 皓男さん】



4 大和緑の散歩道 ～大和歩行者専用道～

昭和20～30年代、農業用水が不足していた相模原台地に相模川から水を引く灌漑用水路が作られましたが、昭和48年からはこの水路を埋め立て、緑道としての整備が進められました。緑道は相模原市、大和市、藤沢市の3市にまたがり、大和市部分の正式名称は「大和歩行者専用道」です。様々な樹木や草花が植栽され、快適な散歩道として沿道の市民に愛されています。

【写真：大和市広報広聴課】





5 観光花農園 (中央林間)

農地の有効利用として、市内の農家、さがみ農協、大和市が共同で市内10箇所の花農園を開設しています。中央林間にあるこの地区では約2,000㎡の農地に、夏はミックスフラワー、秋はコスモスが栽培されています。農園によりヒマワリや菜の花など栽培される花は様々ですが、どこも開花の時期には辺り一面が花で覆われる景観を作っています（下2枚の写真は別地区の花農園）。

【写真左：杉浦 和子さん／写真下：大和市観光協会】



6 大和の葡萄棚 (中央林間)

市内では現在、十数件の農家が葡萄を作っていますが、この葡萄棚は企業の事業所や工場、学校の校舎など大きくて無機質な建物に囲まれた場所にあります。接する道路からはマンションのすぐ前に葡萄棚が広がるというユニークな景観を見ることができます。

【写真左：小林 美知子さん／写真下：大和市街づくり推進課】





7 桜と銀杏の並木道 (中央林間)

企業の事業所の広い敷地を挟むように西側には桜並木が、東側には銀杏並木が500mほど続きます。東側の並木は大和歩行者専用道の一部と重なっています。これらの並木に加えつじやさるすべりなども植えられ、手入れが行き届いた緑の景観を作り出しています。

【写真：大和市街づくり推進課】





8 移築された紺屋 の店蔵(つきみ野)

矢倉沢往還の下鶴間宿で代々酒屋を営んでいた商家の店蔵が、つきみ野の住宅街に移築復元されています（当初は染物屋だったことから紺屋の屋号）。大和市周辺で唯一現存していた蔵造の店蔵を、16代目となる現当主が私費を投じて移築したものであり、現代的な住宅が立ち並ぶ閑静な住宅街に歴史ある蔵造の建物が溶け込む不思議な景観を作っています。

【写真下：高下 守さん／写真左：大和市街づくり推進課】

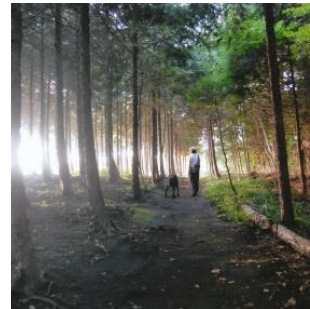




9つるま自然の森 (下鶴間)

相模原市側の「東林ふれあいの森」と接している約3.6haの緑地です。野鳥も多く見られるこの森は「かながわの探鳥地50選」にも選ばれています。地権者の協力を得て保全されてきた森の中には散策路も整備され、地域の人々でつくるボランティア団体が森の手入れを続けています。

【写真左・右下：小杉 皓男さん／写真左下：杉浦 和子さん】



10 林間都市開発の 面影を残す街並み (中央林間)

中央林間、南林間は昭和4年、小田急江ノ島線開通にあわせ小田急電鉄により開発が始められた地域です。その開発計画「林間都市計画」はその後の恐慌や戦争により挫折してしましますが、今でも緑豊かな林間都市のイメージを残す街並みがところどころに残っています。中央林間3丁目辺りには、米軍の旧将校ハウスが立ち並ぶ地区があり、さらに独特の景観を形成しています。

【写真左：大和市街づくり推進課／写真下：杉浦 宇さん】



1 1 多胡記念公園 と慈緑庵(中央林間)

平成2年、多胡三代治・キヨ御夫妻から大和市に寄贈され、多胡記念公園と名付けられた公園です。寄贈の翌年他界されたキヨ夫人の生前の希望から、三代治さんが茶室と書院の建築費を市に寄付し公園内に建てられたものが慈緑庵です。公園の緑は中央林間の住宅地の中で貴重な景観資源となっています。

【写真左・右下：大和市街づくり推進課／写真左下：杉浦 宇さん】





12 中央林間駅前 広場と樹木

昭和4年、小田急江ノ島線開通時に中央林間都市駅として開業し、昭和59年には東急田園都市線の駅も開業しました。駅名にふさわしく、東側の駅前広場にはケヤキが多く植えられ周囲の建物と美しい調和を見せています。西側の駅前広場に立つ数本の大きな木は、駅前の景観を形成するシンボルツリーとなっています。

【写真：大和市街づくり推進課】





13 どんと焼き (中央林間)

どんと焼きはその名称や内容に違いはありつつも、全国的に行われている地域の民俗行事です。大和市内でも神社の境内や学校の校庭などを会場にいたるところで行われています（写真は中央林間南自治会のどんと焼き）。どんと焼きは、その年のしめ飾りや門松などを地域の人々が持ち寄って焼き、その火に当たったり、その火で焼いた餅を食べたりして、その年の無病息災を願う行事です。【写真：川杉 鋭一さん】





14 宇都宮記念公園 (下鶴間)

大和市名誉市民でもある、故宇都宮徳馬氏のご遺族から平成13年に寄贈された土地が公園として整備されています。整備する内容は地域の人々が参加するワークショップにより検討されました。「みどりの森（隣接する緑野公園を含む）」、「ひのきの散歩道」、「仲よし広場」の3つのゾーンで構成される公園は、住宅地の中で貴重な緑の景観を形成しています。

【大和市広報広聴課



15 矢倉沢往還の歴史的街並み（下鶴間）

江戸時代より東海道の裏街道として重要な交通路であった矢倉沢往還が大和市内を通っていました。現在は、ほぼこの旧往還に沿って国道246号が通っています。下鶴間宿があった周辺には観音寺、鶴林寺、唯一残る商家建築である小倉家住宅（下鶴間ふるさと館）など歴史ある建築物が集まり、往還の両側には昔ながらの趣きを残す家々が連なります。「かながわのまちなみ100選」「かながわの古道50選」にも選ばれている歴史を感じさせる景観です。

【写真：大和市広報広聴課・街づくり推進課】



16 諏訪神社 (下鶴間)

創建年代は不詳ですが1680年以前と考えられています。御神体は他で多く見られる神札、神木などではなく神像であり、剣術の北辰一刀流の奉納額とともに大和市の指定有形文化財となっています。境内で年一回開催される「下鶴間子ども相撲大会」は地域の風物詩となり、また、桜の美しい景観も人々に親しまれています。

【写真：大和市街づくり推進課】





17 境川の自然とサイクリングロード

「やまとふじさわサイクリングロード」は、国道246号の大和橋から境川沿いに下り、途中、引地川沿いに変化しながら最後は江ノ島・片瀬海岸まで続く、総延長約24.5kmの自転車道です。大和市部分全域が境川沿いであり、豊かな自然景観を四季を通じて楽しむことができます。

【写真：大和市広報広聴課・街づくり推進課】

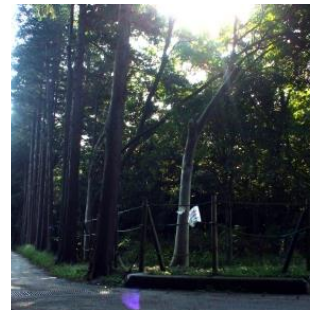




18 深見歴史の森

深見城址一带に広がる約6.5haの森が「深見歴史の森」です。深見城の築城は室町時代、城主は山田伊賀守経光と伝承されますが詳細は不明です。往時をしのばせる空堀や土塁の跡も含め、一带は整備にあまり手が加えられていないため自然のままの景観が残されています。

【写真：大和市街づくり推進課】



19 大和市役所の緑 (下鶴間)

市役所の建物を囲むようにヒマラヤ杉、銀杏などの木々が立っています。市役所の庁舎や近隣のショッピングモールの建物から受ける無機質な雰囲気、それらの緑が潤いを与える景観となっています。市役所正面広場の噴水は市制50周年にあわせ、緑に囲まれた多目的ステージに改修されています。

【写真：大和市街づくり推進課】





20 コミュニティ道路 と街並み（南林間）

中央林間、南林間は小田急電鉄による「林間都市計画」により開発が始まった地域です。その名残でもある、格子状に敷設された道路や敷地にゆとりのある住宅は、この地域に独特の景観を作り出し、「かながわのまちなみ100選」にも選ばれています。「南林間コミュニティ道路」と名付けられた南林間北一条通りは、車速を抑えるジグザグ構造の車道になっており、住民の手入れが行き届いた花鉢が並んでいます。

【写真：大和市街づくり推進課】

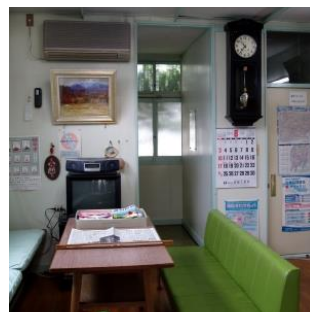




21 昭和のたたずまい を残す医院（南林間）

市内の個人医院の中で古くから開業している医院の一つです。80歳を超えた先生が現役でご活躍中ですが、50年前の開院時のままという木造の医院は、南林間の一角に昭和のたたずまいを感じさせる景観を作り出しています。

【写真左：菊地 博さん／写真下：大和市街づくり推進課】



22 慰霊塔公園 (西鶴間)

昭和27年に造られた公園には、市制施行前の大和町で戦没者追悼のために建設された慰霊塔をはじめ、日露戦役記念塔、忠魂碑、平和記念碑など8つの石碑が建っています。公園部分にはベンチや砂場、遊具などが設置され、公園を利用する人々の平和な日常と慰霊塔とのコントラストが印象的な景観です。

【写真：大和市街づくり推進課】





23 深見の水田風景

大和市内ではめずらしくなった水田の広がる景観を境川沿いなどに見ることができ、深見地区はその一つです。そばにある大和東小学校では地元農家の協力のもと米作り体験が行われています。昭和54年の開校以来続く、市内の小学校では唯一のものです。

【写真：平和がいちばん さん】

24 泉の森（上草柳）

面積約42ha、大和市で最大の緑地が引地川の水源地でもある泉の森です。約450種類の植物や約50種類の野鳥、その他多くの昆虫類なども生息する森は、四季折々様々な姿を見せ、多くの市民の憩いの場となっています。神奈川県指定天然記念物でもあるシラカシ林が「かながわの美林50選」に選定されているのをはじめ、「かながわの公園50選」、「かながわの探鳥地50選」など、様々な選定を受けています。泉の森の一角には郷土民家園があり、江戸時代から近年まで市内に現存していた古民家2棟が移築復元され、昔の大和を偲ばせる景観が作られています。

【写真右下：大和市広報広聴課／左・左下：平和がいちばん さん】



25 相模大塚の屋敷林と門構え (上草柳)

泉の森へは大和駅からプロムナード等を通って向かう行き方が一般的ですが、最寄りの駅は相鉄線の相模大塚駅となります。駅北口から泉の森へ向かう道沿いには敷地も広い旧家が並び、立派な門構えや大きな屋敷林が重厚な景観を作り出しています。

【写真：大和市街づくり推進課】





26 大山の見える 風景（桜森）

大和市のいたるところから丹沢の山々を望むことができますが、相模大塚駅の跨線橋からの眺めも印象的です。特に冬の空気の澄んだ日にくっきりと見える山々や夕焼けに浮かぶシルエットなどは地域の人々にとって思い入れのある景観となっています。



27 ふれあいの森 (下草柳)

引地川を挟むように泉の森の南側に広がる約9haの森です。自然の状態で復元された引地川では川遊びなどもでき、水と緑と四季折々の花々にふれあえる森となっています。相鉄線の線路脇斜面は、春になると一面ピンク色のシバザクラに覆われ、この森の景観で最も知られたものとなっています。

【写真左・左下：平和がいちばん さん／写真右下：小杉 皓男さん】





28 大和駅前広場 とプロムナード

プロムナードは地下化された相鉄線の線路跡を遊歩道として整備し、平成8年に完成したものです。大和駅前広場及びそれと一体となった東西約1kmのプロムナードは、様々なイベント会場としても活用されており、「神奈川大和阿波踊り」、「西口風鈴祭り」、「やまとプロムナード古民具骨董市」、「ウインターイルミネーション」など、大和市で開催される代表的なイベントで一年を通して賑わいを見せています。

【写真：大和市観光協会】





29 やまと公園 (中央)

大和駅の近く、小田急線沿いにある児童公園です。付近一帯が警察署、税務署、保健福祉事務所などの公共施設が集まったなかで、貴重な緑の景観を形成しています。また、市内の産業をイベント形式で幅広く紹介する「やまと産業フェア」の会場にもなっています。

【写真左：大和市街づくり推進課／写真下：大和市観光協会】



30 大和天満宮 (大和南)

先の大戦中、厚木基地内に造られた厚木空神社から戦後まもなく持ち出されたほこらを基に、大宰府から天満宮を勧請したのが大和天満宮の由来です。その後は学問の神様、菅原道真公を奉る天満宮として地域の人々に大事にされてきましたが、この地区の再開発事業によって新たな歴史を刻もうとしています。

【写真：大和市街づくり推進課】





31 深見神社

10世紀に作られた「延喜式神名帳」に掲載されるほどの由緒ある古社です。御神木のハルニレの木は市の指定天然記念物であり、「かながわの名木百選」にも選ばれていますが、長い間樹種が分からず、なんじゃもんじゃの木と呼ばれ親しまれてきました。

【写真：大和市街づくり推進課】

32 引地台公園 (柳橋)

約10haの米軍イーストキャンプ跡地を整備してできた公園で、「かながわの公園50選」に選ばれています。野球場、温水プールをはじめとしたスポーツ施設や多目的広場、野外音楽堂なども整備され、緑の多い景観が市民に親しまれています。市内で最大のイベント、「大和市民まつり」の主会場でもあります。

【写真右下：大和市観光協会／左・左下写真：平和がいちばん さん】





33 久田緑地 (上和田)

境川に沿って細長く続く約6haの緑地で、かながわトラストみどり財団によって緑地所有者と保全契約が結ばれ、緑地保全のモデルとして取り上げられることもあります。周囲の畑や屋敷林とともに、大和市内でも貴重な農村風景を作り出しています。

【写真左：大和市広報広聴課／写真下：大和市観光協会】





34 上和田左馬神社

周辺12箇所のサバ神社のうち、7社をお参りすると厄除けとなるという、七サバ参りという信仰があり、この神社もその7社のうちの一つです。この地区には数えて13または14歳の男子が地区内の家々を回り、無病息災を祈願しながら鉦を鳴らす「ジャンジャン講」という伝統行事が今も残っており、この神社はその出発点となります。

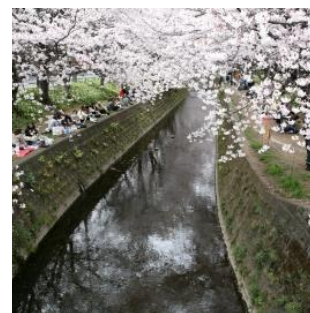
【写真：大和市街づくり推進課】



35 千本桜（福田）

引地川沿いに約700本の桜並木が続きます。満開の頃には川を囲む桜のトンネルのようになり、その圧巻の景観を目当てに遠方からも多くの人々が訪れます。桜の時期だけでなく夏の灯籠流しや秋の紅葉など、四季折々の景観が人々の目を楽しませています。

【写真左・右：大和市街づくり推進課／写真左下：平和がいちばん さん】

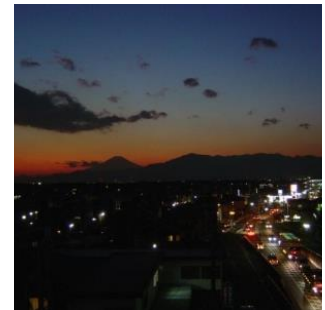




36 富士山の見える風景（福田）

大和市の北部では大山に隠れて見ることができない富士山も、南に行くほど見える部分が増えてきます。市南部には、引地川沿いの高台や、最近整備の進んだゆとりの森など、富士山を美しく望むことができる地点が点在しています。

【写真左・左下：平和がいちばん さん／写真右下：佐藤 正一さん】





37 常泉寺（福田）

1588年頃に建てられたという歴史あるお寺で、明治初年に現在の渋谷小学校のルーツである桃蹊学舎が設置された場所でもあります。一年を通じ200種類以上の草花が咲く「花のお寺」として知られ、華やかな景観で訪れる人を楽しませています。「かながわ花の名所100選」にも選ばれています。

【写真左下：大和市広報広聴課／写真左：大和市街づくり推進課／写真右下：平和がいちばんさん】





38 引地川沿いの 街並み（福田）

引地川を千本桜から下流に少し行くと、川の右岸に比較的新しい住宅が並ぶ街並みが見えてきます。大和市神明若宮土地区画整理事業により都市基盤整備が行われた地区であり、車道とは別に川に沿った歩道が設けられ、川と住宅地との調和が図られた街並みが続いています。

【写真：大和市街づくり推進課】



39 高座渋谷西 モール（福田）

高座渋谷駅を中心とした約42haに及ぶ渋谷土地区画整理事業により今までの商店街が、市内で初めて歩行者専用道路に面した商店街として生まれ変わりました。電線類の地中化や周辺の住宅街との景観の調和など、「華やかな安全で賑わいのある商業地の創造」をテーマに新たな商業地の創造が進められています。

【写真：佐藤 正一さん】

40 住宅地の中の ミニ牧場（福田）

住宅地の中にある小さな草地にヤギとポニーが放され、市内では他に
見ることのできない牧歌的な景観が作り出されています。このヤギ達は、「大
和市民まつり」や「やまと産業フェア」の会場で、子ども達の人気を集め
る「ミニ牧場」のコーナーに登場しています。

【写真：大和市街づくり推進課】



41 下福田の長屋 門と屋敷林

代々名主を務めていた旧家に、江戸時代末期に建てられたと推定される長屋門が今も残っています。周辺は畑が広がる緑も多い地域で、のどかな景観が広がっています。市の指定有形文化財でもある門のそばには樹高25mの立派なケヤキが立ち、こちらは市の指定天然記念物となっています。

【写真：大和市街づくり推進課】



42 薬王院縁日と双盤念仏（上和田）

鎌倉幕府の武将、当時地頭であった和田義盛が眼病を患い薬師如来に祈願したところ全快したことで、信法寺にこの薬王院が建てられたと伝えられています。毎年9月8日の縁日には、眼病に効能があるとされる「薬師芽生姜」が売られ、無病息災・家運隆昌・五穀豊穡を祈って双盤念仏が演奏されます。双盤念仏は市の指定無形民俗文化財となっています。

【写真：大和市文化振興課】





43 上和田野鳥の森

周囲を住宅街に囲まれた面積約5haの緑地です。その名のとおり、数十種類の野鳥が生息し、湧き水のある湿地帯ではめずらしい植物や様々な昆虫も見られます。神奈川県鳥獣保護区にも指定され、地域の人々からも大事にされている緑地です。

【写真：大和市広報広聴課・街づくり推進課】





44 下和田の水田風景

深見地区同様、いちよう団地付近にも、大和市内では数少ない水田の広がる景観が広がっています。田植え前の水田では毎年4月29日、「やまとふれあいの里レンゲまつり」が開催されます。水田いっぱいに咲くレンゲの花と、地域の人々が持ち寄った約150匹の鯉のぼりが舞う姿はこの地域の風物詩となっています。

【写真上・中：大和市街づくり推進課／写真下：平和がいちばん さん】

